

# 浅場の生産力を高め、豊かな海を次世代に引き継ぐ

## 明石市林崎地区浅場を守る会

### 林崎地区について

林崎地区は、日本の時刻の基準となる兵庫県明石市の南東部に位置し、瀬戸内海の播磨灘に面す。

地先沖には、「鹿之瀬」と呼ばれる東西20km、南北5kmの浅瀬がある。この浅瀬は、イカナゴの産卵場・夏眠場、また明石ダコや明石ダイをはじめとする大小さまざまな魚介類を育む豊かな餌の生産地となっており、瀬戸内海屈指の『魚の宝庫』として知られる。

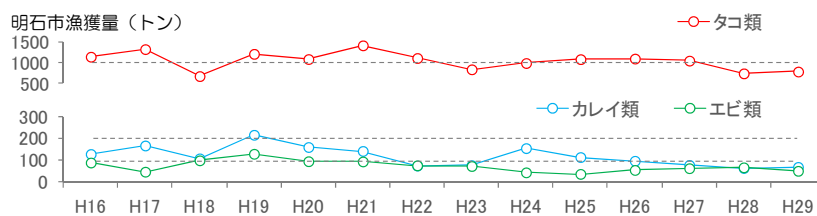


### 浅場の現状

地区の主な漁業は、ノリ養殖と漁船漁業である。ノリ養殖は、県内屈指の生産量を誇る。また、漁船漁業（船びき、底びき等）は、チリメンやイカナゴを主に、その他タコやアナゴ、カレイ、ガシラ（カサゴ）などの多種多様な海産物を水揚げしている。

しかし、近年は、地先浅場の海底の硬化や浮泥の堆積などの底質悪化によって、特に浅場で獲れるマダコやカレイ類、エビ類などの海底に生息する海産物の漁獲量が落ち込んでいる。また、これら海産物だけでなく、多種多様な魚介類の餌となる底生生物現存量の低下も懸念されており、地区の漁船漁業の喫緊の課題となっている。

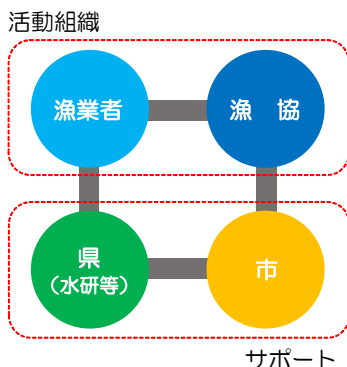
一方、最近では、海域の貧栄養化によるノリの色落ち被害なども問題になっており、播磨灘全域の栄養塩の底上げが求められている。



### 組織の設立及び活動方針

上記した背景から、当該地区の漁業者が中心となり、平成21年度に「明石市林崎地区浅場を守る会」を設立し、①浅場の底質改善、②貧栄養化の対策に係る取り組みをスタートした。

組織の体制は右記。活動方針は以下に示したとおりである。



#### ●活動方針

- 浅場の底質悪化や貧栄養化への対策 海底耕うん**
  - 海底耕うんの効果として、①堆積した浮泥の巻き上げ・拡散、②地盤の硬化の解消、③海底に蓄積された栄養塩を海中に還元することが挙げられる。
  - そこで、海底耕うんを実施し、上記効果によって、浅場の生物生産力の向上を図る。
- 浅場の生物生産力の向上に係る検証 モニタリング**
  - 底質の改善や栄養塩の底上げによって底生生物の現存量や多様性の向上が期待される。
  - そこで、底生生物の定量調査を実施し、活動の効果を検証する。

### 浅場の生産力の向上をめざして 海底耕うん

浅場の底質改善、また栄養塩の底上げを図るために、海底耕うんを毎年定期的実施する。

海底耕うんは、船上から自作の耕うん機（桁式）を曳航して行う。

活動場所は、ノリ養殖を営む区画の海底。この区画は、ノリ養殖施設の設置期間（9月下旬～翌年5月上旬）中に保護区となるため、海底に浮泥が堆積したり、海底の硬化が進んだりする。また、ノリ養殖漁場であることから、栄養塩の供給が必要な場でもある。

活動時期は、7～8月の夏季で、ノリ養殖の施設が設置される前に実施。耕うん作業は、活動場所を満遍なく耕うんできるように、11隻（1隻監視船）の船が並走して実施する。また、海底を良く攪拌するために、同じ場所を2回以上繰り返し耕うんすることになっている。

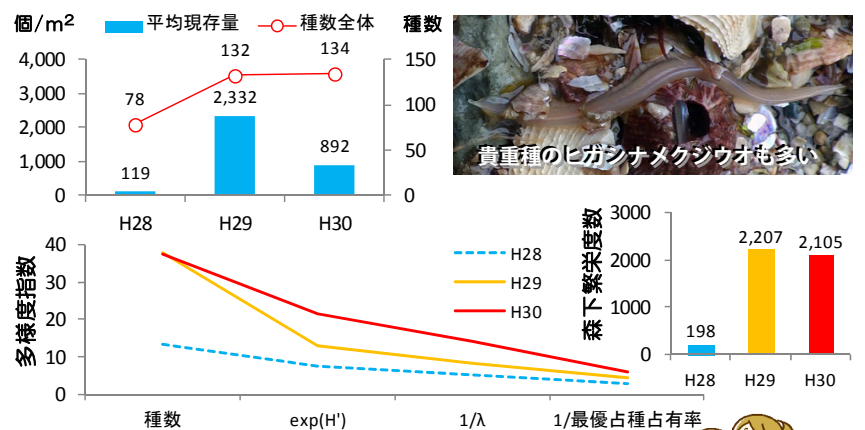


### 活動の成果 餌生物の増加と生物多様性の向上

耕うんによる底質悪化の抑制や、栄養塩の底上げは、海底に生息する底生生物の現存量や多様性に大きく寄与すると考えられる。

そこで、活動の効果を検証するために、底生生物全般のモニタリングを実施している。

その結果、底生生物の現存量や種数は、平成28年度は少なかったが、水産有用種の好適餌料となるヨコエビ類やワレカラ類などの端脚類が増えたことで、29・30年度に大きく増加した。また、生物多様性の指標となる多様度指数プロファイルや森下繁栄度指数にも増加傾向がみられ、活動の効果がうかがえた。



### 今後の方針 豊かな海の継承に向けて

長年の取り組みによって、浅場の底生生物の生産力や多様性の向上が認められるようになった。今後も、自分たち漁業者で行える活動を地道に進める。また、こうした活動が「豊かな海の継承」を新たな理念として改定された瀬戸内海環境保全特別措置法の推進につなげていければと考える。

